

我孫子市長賞

税金と共に生きるということ

我孫子市立我孫子中学校 第三学年 小池 琉花

私は、日々生活していく中で「税金」というものをあまり気にしていませんでした。しかし、最近はニュースで増税という言葉をよく聞く気がしました。SNSなどでは「増税きつい」「増税して大変」などのつぶやきを見かけます。確かに増税は負担が増えて大変ですが、本当に負担だけなのか、私たちにプラスになっていることが何かあるはずだと思います。その時は、小学生のころに見た『もし税金がなくなったら』という動画を見たことを思い出しました。その動画では、もし日本から税金がなくなってしまうときに私たちの生活がどうなってしまうのかという内容でした。例えば、税金がなくなったことで物価が今よりも安くなり、物が今までよりも安く買えることがいいなと感じました。しかし税金がなくなること町が整備されていなかったり、救急車や消防車を呼ぶことでもお金がかかったりします。これらはすべて税金で支援されていたことなのです。また、学校にも行くことがままならない子どもも出てきます。私たちがいつも通っている学校にもたくさん税金が使われています。学校の校舎や机、いす、教科書などに使われていて、たくさんの方が税金を払っているからこそ、私たちが学校に通えていてとてもありがたいことなのだと思います。しかし、世の中には学校に通えない子どももいます。小さい頃に家族でファミリー旅行に行つたときのことです。小学生くらいの現地の女の子が、「ヒヤクエン、ヒヤクエン」と何かを売っていました。ファミリーでは、貧富の差で教育が受けられない子どももいます。旅行で見た女の子がどのような事情なのかは分からないけれど、学校に行くお金を稼ぐために学校に通わず一生懸命に働いている子供がいます。ファミリーだけではなくほかの国にもたくさんいるはずです。そう考えると、今まで大変だな、面倒くさいな、と思っていた学校が通えているだけで、ありがたいことなのだと実感しました。学校に限らず私たちの生活にはもっとたくさん税金が関わっています。特に今後の生活に大きく関わってくると思つたのが社会保障です。社会保障とは将来を保証するということで、医療保険や介護保険、年金、などの生活に必要なになってくることを、税収をして安定させる必要があります。

増税に対して、確かに私たちの負担は増えているかもしれませんが、しっかりと税金を納めることで、たくさんの人を支えることができます。支えるだけではなく、支えられてもいます。税金と共に生きるということは、たくさんの人と協力して、支えあいながら生きていくことだと思います。私はまだいろいろな税金を払ったことがないけれど、大人になったときには自分の将来のために、誰かの幸せな生活のために税金を納めることができたらいいなと思いました。